

「ユース(若者)によるユネスコ活動の促進」に関する取組事例 推薦案件一覧

令和6年9月

※本資料は、事務局において推薦書に基づき作成

No.	取組名	実施団体	活動概要
1	GOALs～学校協働SDGsチャレンジ～	GOALs(麗澤中学・高等学校、晃華学園中学校高等学校、千葉県立柏陵高等学校、公益財団法人五井平和財団)	・2021年に、「ESD日本ユースコンファレンス」(文科省、国内委員会、五井平和財団主催)の参加者を中心としたユース世代の教員らにより、学校間連携ESDプロジェクトとして発足 ・中高生24名が月1-2回程度集まり活動。「福島から考える持続可能な未来」をテーマに、福島を訪問し、ディスカッションを行い、活動を実施 ・2023年度は、福島県産オーガニックコットンを使ったオリジナルハンドタオルを作成・販売(約400枚)。校内外での活動発表やメディアを通して広く情報発信。2024年度は、中高生のためのスタディツアーを計画・実施 ・環境省「チャレンジアワード2023」の環境大臣賞を受賞
2	別子銅山の近代化産業遺産を生かした持続可能なまちづくり学習	愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部	・1999年に開始、本年で25年目 ・小学校のふるさと学習(高校生の案内で小学校周辺を巡るフィールドワーク) ・中学校の出前授業(約100回。のべ1万人) ・ESD国際交流プログラム、JICA四国と連携した海外研修生の現地案内等 ・別子銅山を紹介したガイドブックの作成(市教委により出版され、小中学校に配付。) ・別子銅山体験者の聞き取り調査、動画配信(のべ約150名) ・2024年夏、第1回全国金銀銅中高生サミット開催予定 ・「未来をつくる若者オブザイヤー」内閣府大臣賞等、多数受賞
3	室戸高校の生徒による「大地のなりたち」の劇	高知県立室戸高等学校	・2024年2月から、室戸高校の生徒7名が、授業の一環で、複数の保育施設の園児を対象として、室戸ユネスコ世界ジオパークに広がる大地の成り立ちを紹介する劇を上演。 ・室戸ジオパーク推進協議会や住民グループと連携して活動。台本は、協議会が作成したマンガを活用し、全て生徒が作成。 ・園児は自然を大切にする意識等が育まれ、生徒はジオパークの自然・文化・産業等を学び、故郷への興味関心等が育まれる。
4	野外活動を楽しくサポート	奈良教育大学ユネスコクラブ	・10年以上実施(コロナ禍除く) ・奈良市を中心に、学校や子ども会の児童生徒を対象として、野外活動センターで、グループ活動の補助や各種活動の指導を行っている ・子どもたちのESDで育てるべき価値観を育み、教員を目指す学生の教員志望も強くなる
5	令和版！平和の鐘を鳴らそうプロジェクト	令和版！平和の鐘を鳴らそうプロジェクト実行委員会(ユネスコ全国的青年連絡組織・青年会員有志)	・2023年8月に、ユースが平和の大切さについて語り合う会議を東京・仙台・名古屋をオンラインで結んで開催 ・2024年は、1月にユネスコ青年全国大会でディスカッションや勉強会等を実施したほか、8月には高校生を対象としたイベント(講演会・ワークショップ)を開催予定 ・各地のユネスコ協会で長年行われている「平和の鐘を鳴らそう」運動を令和版として再構築するため、全国的青年連絡組織(35歳まで)から自発的に生まれた活動

No.	取組名	実施団体	活動概要
6	復活～第6回宮城ユネスコ子どもキャンプ	公益社団法人仙台ユネスコ協会青年部	・「東日本大震災ユネスコ子どもキャンプ」(主催:日本ユネスコ協会連盟)への協力経験から、仙台ユネスコ協会青年部が自ら手を挙げて引き継ぎ、本事業として実施(2019年度までに5回)。コロナ禍を経て、本年から再開 ・小学4年生～中学3年生を対象とした異年齢交流のキャンプを通じて、子供の成長や青年部会員自身の変容の実感に寄与 ・事業運営は、青年部会員のほか、応募のあった高校生、大学生、社会人青年が担う。奈良ユネスコ協会青年部も協力するなど、青年部間のネットワークもできている ・キャンプに参加した児童生徒が、高校生・大学生となって青年部に入会する好循環も生まれている
7	2000人プロジェクト	東京都ユネスコ連絡協議会	・2020年、都内のユネスコ協会の活性化・充実化等を目的として発足 ・2022年から、11のアクションを実施: ※①③④⑦⑪はユースがリーダー ①バーチャルスタディツアー、②異文化アカデミー、③ゴミ問題からSDGsを考えるWS等、④「Future of Education」勉強会、⑤世界遺産登録を目指す玉川上水プロジェクト、⑥こども世界遺産クイズ(出前イベント)、⑦大学ユネスコクラブ間ネットワーク、⑧ESD/SDGs研究会、⑨世界遺産登録を目指す国立代々木競技場勉強会、⑩都ユ連交流有志の会、⑪未来に向けた地域遺産応援プロジェクト ・これまでの成果:新しいユネスコ協会・クラブの設立(3件)、大学ユネスコクラブとの連携、ユースの参加促進、他団体との新たな連携 等
8	スタディツアー	岐阜県ユネスコ協会青年部	・2012年度から毎年実施。コロナ禍以降は、オンラインとのハイブリッド開催等、工夫しながら継続 ・岐阜県内(岐阜市、春日村、関ヶ原、大垣等)の歴史・文化・産業等の地域性を重視したスタディツアーを企画・実施 ・2024年度は、能登半島地震を念頭に「根尾断層」を紹介し、防災について学ぶ ・全国の青年に参加を募り、ユース世代が自らネットワークを形成・拡大。ユース同士の交流に加え、訪問先の地域で現地の方々とも交流
9	若者・学校・地域の変化を生み出すネパールとの交流活動	箕面ユネスコ協会	・高校生・大学生を中心に、ネパールへのスタディ・ボランティアツアーを実施。現地の小学校で「衛生ワークショップ」(手洗い・歯磨き等)を創意工夫して開催 ・活動費は、クラウドファンディングを活用 ・箕面市内の学校と協働授業を実施。ネパールでの学びを共有。カトマンズの学校とオンライン授業
10	サカナでまちを盛り上げる～新潟県立海洋高校と能水商店の連携～	株式会社能水商店	・2013年、海洋高校は、糸魚川市でイクラを採った後のサケの身を(廃棄せず)活用した魚醤「最後の一滴」を開発。また、それを使った漬魚、ポン酢、めんつゆ等の新商品を開発 ・糸魚川ユネスコ世界ジオパークや行政が連携し、地域ぐるみで高校生の活動を支援。株式会社能水商店が、商品開発・製造・販売の機会を生徒に提供 ・地域の自然・歴史・文化・産業等を学び、商品開発を通じて、考える力や行動する力、課題解決力を育む ・2016年にアジア太平洋ジオパークネットワークの国際シンポジウムで、生徒が英語で発表